

低温（冬期）についての技術対策

野菜露地

【事前対策】

- ・寒干害は比較的長期の低温・乾燥によって起こる。また、凍霜害は短期の急激な低温・降霜によって発生するため、気象予報により被覆する。あらかじめ被覆すると、資材と作物が密着した部分が凍害を起こすことがあるため、注意する。
- ・作付けに際し、日照、風向き等を考慮して凍霜害の回避できる適期および適地を選定する。
- ・深耕、有機物の施用等により、保水性の高い土作りを行い、根張りのよいほ場にする。
- ・早まき、早植えを極力避け、健苗の育成に努める。
- ・土壤水分が多いと耐寒性が低下するので、やや乾燥気味に管理する。
- ・早期からの被覆や密植、多窒素、多灌水等による軟弱徒長を避け、厳寒期前に耐寒性を低下させないようにする。
- ・敷き藁、敷き草、コモ、ヨシズ、寒冷紗被覆等を行い、放射冷却による植物体温の低下を防ぐ。
- ・マルチフィルム等による地温の確保を行う。
- ・保温性は、夜間では割繊維不織布（ベタロン）、寒冷紗（＃300）や長繊維不織布（パスライト等）をうきがけする。ただし長繊維不織布をうきがけするとばたつくので、割繊維不織布や寒冷紗の方が処置しやすい。日中では割繊維不織布や長繊維不織布をじかがけすると効果は高いが、事前対策としてみた場合は軟弱気味に生育して、耐寒性を低下させたりする。
- ・ソラマメ、エンドウなどは株元に土寄せし、不定芽を保護する。
- ・ハクサイは八分程度結球していれば、外葉で包んで結球部分を保温する。
- ・追肥に伴う中耕により根を切り、寒害を助長することがあるので、深耕しないよう注意する。
- ・冬期に灌水する場合はなるべく暖かい日の午前中に行う。

【事後対策】

- ・被害が出た場合、欠株を補植し、肥培管理による生育回復に努める。

※ 作業中及び見回り時に事故に遭わないよう十分に注意し、安全を確認の上、ほ場や施設の管理を行ってください。